

# 子ども図書研究室だより

2004.12.20 発行 NO.9

静岡県立中央図書館

<http://www.tosyokan.pref.shizuoka.jp/>

## 研究室所蔵の雑誌紹介

研究室では、子ども図書や子どもについて研究するために、図書資料だけでなく雑誌も所蔵しています。本の紹介だけでなく子どもの文化や子育てに関する雑誌もあります。そんな中からいくつかを紹介します。

### 「この本読んで！」出版文化産業振興財団（季刊）

この雑誌は書店販売をしていない雑誌ですので、ご存知ない方もいらっしゃるかと思います。子どもと本に関する情報が盛りだくさんです。最新号を少し紹介すると、次のような内容があります。

誌上講座 昔ばなしセミナー開講（2004年冬号）

講師：小澤俊夫氏

筑波大学名誉教授

昔ばなし大学/昔ばなし研究所主宰

1992年から全国54ヶ所で「昔ばなし大学」を開講

内容：昔話の言葉づかいや言い回しについて。昔ばなしの構造、イメージ、話型の研究。昔ばなしはその土地の言葉で語られるのが美しい。しっかりした日本語観を持って昔話のことを学んでいきましょう。

子どもにとっての昔話を学びたい方、子どもに昔話を語ろうと思っている大人に、参考になる特集だと思われます。

### 「子どもの文化」子どもの文化研究所（月刊）

子どもについて知りたい、目の前にいる子どもたちを理解して子どもと本に関わっていきたくと思う方に。子どもの文化について総合的に扱っています。各号とも興味深い特集が組まれています。

6月号：お金はお金。されど…。

- ・お金から社会を考える。エコマネー
- ・地域通貨を使うこと。金銭教育は親子で…。

10月号：「食育」を考える

- ・食文化の変化と「食育」（現代の食習慣の実態を通して）
- ・朝食の問題・調査データ
- ・いま、なぜ「食育」か 「食育基本法」を中心に

11月号：関西発 やくたたずもの

- ・子どもの心のでこぼこについて
- ・心理教育相談の現場から

### 「子どものしあわせ」草土文化（月刊）

この雑誌は、子育て、子どもに関する様々な情報を掲載しています。最近取り上げられた記事は、

- ・権利条約・子どもたちにふさわしい世界を  
- 批准から10年 -
- ・「死語」と「私語」「会話」と「対話」点と線
- ・子どもを支える家族と地域社会

などがあります。

### 「月刊子ども論」クレヨンハウス

毎月20問、子どもの視点を測る問題が見開きに掲載されています。例えば、次のようなものがあります。

- ・英国発祥の言葉「ニート」日本版「ニート」の定義は？
- ・子どもが誤って飲み込み、事故になった物のトップは、なに？
- ・子どもを深夜外出させないよう保護者の責任を義務化する県は？

そして、それぞれの問題に関係する新聞記事が各種新聞からピックアップされています。また、毎月50ページほどを「子どもの本・文化」にあて、新聞に掲載された絵本や児童書の書評を見ることができます。

以上の4誌の他、所蔵しているのは次のとおり。

「Children & Libraries」	ALSC
「子どもと本」	子ども文庫の会
「JBBY」	JBBY
「BOOKS FOR KEEPS the children's book magazine」	The Friary Press
「月刊 ニュースがわかる」	毎日新聞社
「Cooyon」	クレヨンハウス
「子どもと昔話」	昔話研究所 古今社
「活字倶楽部」	(株)雑草社
「book bird」	IBBY

雑誌のバックナンバーはお近くの市町村図書館まで貸出をすることができます。詳しくは研究室へお問合せください。054-262-1243

## イベント・講座情報

### 子ども図書研究室講座「子どもの本を選ぶ」

毎年、何千冊と出版される子どもの本。その中からどんな本を子どもたちに紹介していけばよいのか。一緒に勉強しませんか。

日時：平日コース

平成17年1月25日(火)2月1日(火)  
10:30~12:30 連続2回

土曜コース

平成17年1月29日(土)2月5日(土)  
10:30~12:30 連続2回

講師：松村 雅子氏（富士宮子どもと読書の会）

場所：静岡県立中央図書館 子ども図書研究室

定員：各コース20名（先着順）

各コースとも2日間受講できる方

問い合わせ

：静岡県立中央図書館子ども図書研究室

054-262-1243